

<全体分析>

試験時間 90 分

解答形式

I～Vはすべてマーク式で、VIとVIIは記述式

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

※ここ5年の長文2題の総語数は、「1,923→2,338→1,959→1,883→1,953」で推移している。

出題の特徴や昨年との変更点

・READING/GRAMMAR SECTION (6題→5題) と WRITING SECTION (2題) という、2022年度と同じ大問7題の構成に戻った。

・WRITING SECTION では、2019年度以降4年連続して、英文中での語句整序が出題されていたが、2023年度はメールを完成させるもの(大問VII)に、さらに2024年度は列車の乗換案内(大問VI)に変わった。なお、最後の大問は、2019年度以降6年連続して、「絵」を用いた形式の自由英作文が出題されている。

その他トピックス

・大問IIで、2023年度は出題されなかった法学部の定番といえる「パラグラフの要旨選択」と「発音・アクセント」が復活した。なお、2023年度に大問IVと大問VIで出題された新傾向問題は「一年限り」で姿を消した。

・大問IVの正誤判定問題では、2023年度に引き続き、「ALL CORRECTが正解」となる設問はなかった。

・大問VIIは Write a paragraph in English about what this photograph of street art means to you. Do not simply describe the image. という指示文になっている(出典元から「Banksyの作品」であることがわかる)。

<大問分析>

番号	区分	出題分野・テーマ	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	読解総合	「髭税が象徴するピョートル大帝が行った文化改革」(911 words)	内容不一致、空所補充、関連資料、同意表現選択 設問(1)のテーマを絞った内容不一致は本学部の定番といえる。(3)は関連する資料の内容に合致するものを選ぶもので新傾向問題。	やや難
II	読解総合	「男女間の学力格差および学力向上に寄与する方策」(1,042 words)	パラグラフの要旨選択、内容不一致、同意表現選択、発音・アクセント(強勢のある母音の識別) 1,000語超の長文であるが、内容はわかりやすく、設問も素直で解きやすいものが多い。	標準
III	文法・語法	中文空所補充	5行の英文中の6か所の空所に適切な前置詞・副詞を補充する。選択肢は12と多いが、無理なく選べる。	標準
IV	文法・語法	正誤判定	下線を引いた4か所のうち、文法的に正しくないもの(誤りがなければ ALL CORRECT)を選ぶ。	やや易
V	その他	中文空所補充	150語程度の英文中の空所補充。内容はわかりやすく、解きやすい(大問III～Vの3題は確実に得点にしたい)。	やや易
VI	自由英作文	駅員の立場で乗客に列車の乗換方法を案内する	2023年度の「レストランの予約メール」同様、「列車名・時刻・乗換駅」などの情報を盛り込むように指示されている。4つめの「特急券購入が必要」の伝え方がポイント。	標準
VII	自由英作文	与えられた絵から読み取れる内容を表現する	与えられた絵を見て、「その絵から読み取れる内容」についての考えを「1つのパラグラフ」にまとめるように指示されている。解答欄のスペースから判断して、90語程度で書くことになる。	やや難

注：区分は「英文解釈」「読解総合」「英作文」「文法・語法」「聞き取り」「その他」

難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- ・長文問題では、内容一致型の設問が数多く出題されるので、日頃から本文と選択肢を照らし合わせながら読み進めていく訓練が必要となる。また、語彙に関しては、できれば受験レベル以上のものにも手を広げておくことよいだろう。
- ・文法や語法（イディオムを含む）に関しては、過去問などを利用し、標準レベルの問題を中心に演習しておけば対応できる。なお、同じ動詞（たとえば get）を含むイディオムを用いて出題されることが多いので、こうした法学部独自の形式のものには慣れておくこと。
- ・自由英作文では、構文や表現を確実に身につけておくとともに、適切な接続詞や関係詞などを用いて文を構成する訓練が必要である。グラフや絵・写真といった視覚情報から読み取れる内容を記述する問題への対策を十分に行っておくこと。